

# コモンスペースをもつ大学校舎の空間構成に関する研究

正会員 ○ 古賀 直人\*1  
 同 安森 亮雄\*2  
 同 松浦 達也\*3

大学校舎 コモンスペース 空間構成

1. 序 近年、多くの大学で大学校舎にラーニングコモンズ等のコモンスペース<sup>注1)</sup>が新たに確保され、学生や教員の交流を促し教育研究の効果向上を図る上で重要な役割を担っている。コモンスペースにはエントランス部にあり外部のキャンパス空間と連続するものや、吹抜けを介し上下階を繋ぐものがあり、それ自体の用途とともに大学キャンパスの中で校舎全体の空間を統合する役割をもっていると考えられる。これまで筆者らは既報において、大学キャンパスにおける正門付近の空間構成<sup>注2)</sup>や建物の通過動線<sup>注3)</sup>といったキャンパスの外部空間と建物の関係について報告した。本研究では、建物内部にコモンスペースをもつ近年の大学校舎<sup>注4)</sup>を対象とし、その用途や配置から大学校舎の空間構成を明らかにすることを目的とする。

2. コモンスペースの用途 大学校舎には様々な用途のコモンスペース(以下CS)が配置されている。例えば図1の分析例の建物では、地上階では交流の場の中心となる食堂とキャンパス内の動線となっているギャラリーがフロアの大半を占め、2階では講義室前にホワイエがあり、吹抜けに面することで上下階に連続性をもたせている。まず、こうしたCSの用途について、食堂などの特定用途とラウンジなどの不特定用途に分類した結果(表1)、不特定用途のものが多くみられた。また、CSにはキャンパス内の通過動

線となっているものがみられた(表2)。

## 3. 大学校舎におけるコモンスペースの配置

3.1 地上階におけるコモンスペースの配置 CSは大学校舎の様々な位置に配置されている。そこで、地上階におけるCSの配置について、エントランス部にあるか、フロアの部分が過半を占めるかどうかから整理したところ(表3)、エントランス部にもつものが多くみられた。さらに、屋外CS(表4)や広場との関係(表5)、2章で検討したCSの用途と通過動線の有無を併せ、全資料を検討した結果、地上階におけるCSの配置パターンA-1~Dが得られた(表6)。A-1は地上階にCSをもたないもので、A-2はピロティなどの屋外のCSをもつものである。Bはエントランス部にCSをもつもので、その奥にも図書室などの特定用途のCSをもつものが多かった。Cは屋外とエントランス部にCSをもつもので、ピロティやテラスを介しアプローチし、通過動線のあるものが多い。Dはエントランス部以外にCSをもつもので、ほとんどみられなかった。

3.2 上層階におけるコモンスペースの配置 次に、上層階のCSの配置と用途について検討した結果、エレベーター、階段などのコアや吹抜け周りに配置されたものが多くみられ、吹抜けについてはその形状についても検討した(表7)。屋外CSをもつものについてはその用途(表8)についても

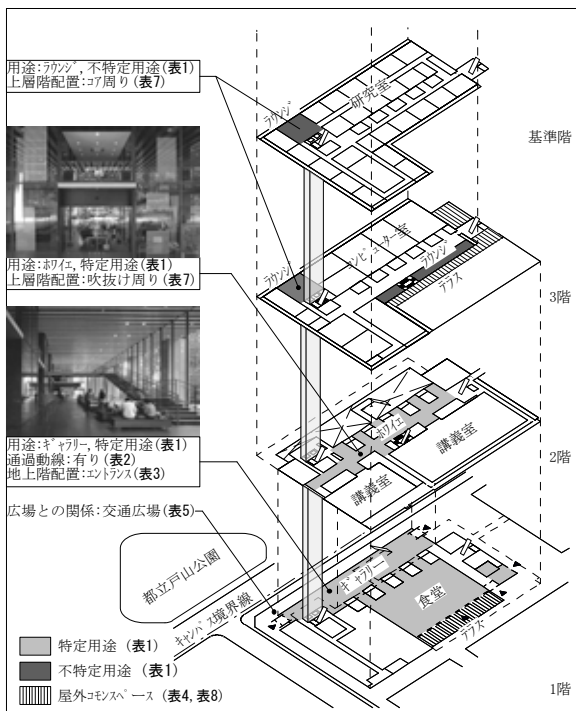


図1 分析例(No. 33 早稲田大学 大久保キャンパス 63号館)

表1 コモンスペースの用途 (264スペース)

特定用途 (特, 78)			不特定用途 (不, 168)		
図書室(図)	展示室(展)	食堂(食)	学生支援センター(学)	エントランス部(エ)	ラーニングコモンズ(コ)
18	17	17	4	13	162
18	17	17	4	13	162

表2 通過動線(55建物) 表3 地上階におけるコモンスペースの配置 (102スペース)

通過動線有り(↑)	エントランス(▲)			非エントランス(60)	
20	40	10	34	過半(★)	18

表4 地上階の屋外コモンスペース (55建物) 表5 広場との関係 (55建物)

ピロティ(P)	テラス(T)	中庭(C)	キャンパス広場(広)	交通広場(交)
24	7	6	19	15

表7 上層階におけるコモンスペースの配置 (55建物)

コア(○)	有り			その他	無し
	上下貫通(○)	吹抜け	下部のみ(▽)		
25	9	11	3	3	4

表8 上層階の屋外コモンスペース(55建物) 表7

テラス(T)	屋上広場(R)
20	5

注) 階段と吹抜けを組み合わせたものは記号を組み合わせることとする。上層階のフロアの過半を占めるコモンスペースには★を付けることとする。また、上層階に一部コモンスペースをもたない階がある場合は\*を付けることとする。

検討した。

#### 4. コモンスペースをもつ大学校舎の構成類型 3章

で得られた地上階部分のCSの配置と上層階の配置を併せ検討した結果、資料が集中した構成として類型①~⑤-2が得られた(表9)。類型①は地上階にCSがなく、上層階にフロアの過半を占めるCSをもつ構成である。類型②は上層階にCSがなく地上階のみにもつ構成である。これらに対して、類型③~⑤-2の類型は地上階と上層階の双方にCSをもつ構成である。このうち③は地上階のCSがピロティと連続し、上層階はコア周りにCSをもつ構成である。④-1は下階の吹き抜け周りにCSをもち、地上階はフロアの過半を占める特定用途のCSをもつ構成で、④-2は全フロアを貫通する吹き抜け周りにCSをもち、地上階のCSがキャンパス内の通過動線となる構成である構成である。⑤-1は地上階にはピロティ等の屋外CSをもち、下階のみの吹き抜け周りにCSをもつ構成である。⑤-2は地上階にはピロティ等の屋外CSをもち、全フロアを貫通する吹き抜け周りにCSをもつ構成である。

以上の類型を整理すると、②~⑤-2は校舎が広場と接続している構成で、③、④-1、⑤-1はCSの用途が上下階で異なり建物全体をゾーニングする構成、④-1~⑤-2は

吹き抜け周りにCSをもち、上下階をつなぎ校舎全体を統合する構成である。

#### 5. 結

近年のコモンスペース(CS)をもつ大学校舎の空間構成について検討した。その結果、地上階と上層階の双方にCSをもつ傾向がみられた。その中で、吹き抜け周りにCSをもち上下階を統合させるものと、地上階と上層階でCSの配置や用途を変え階でゾーニングするといった、CSによって大学校舎の上下階を関係づける構成がみられた。また、地上階にCSをもつものの多くが広場と接続しており、これらのことからCSには校舎やキャンパスを統合する役割があることを明らかにした。

#### 注

- 1) コモンスペースとは一般に学校建築において多様な活動に対応し、ゆとりのある学校生活を可能にするために設けられるオープンスペースをさす(建築大辞典/彰国社)。また文部科学省による「国立大学等施設の整備充実に向けて-未来を拓くキャンパスの創造-」では、共同研究等に関連する人・情報・物の流れが集約される共有の場とされている。本研究では、学生や教員の様々な活動に対応し、食堂や図書室を含む交流や情報収集を行うことのできる空間をコモンスペースとする。
- 2) 本研究では、知的活動を促す環境づくりにあたって、コミュニケーションの場の確保を提唱した、「国立大学施設整備計画指針」の策定された1994年から2013年までの「新建築」に掲載されている現代日本のコモンスペースをもつ大学校舎55作品を資料とした。うち、新築が44校舎、改修が11校舎であった。

#### 参考文献

- 1) 佐熊勇亮, 安森亮雄: 現代日本の大学キャンパスにおけるゲート建物による正門付近の空間構成, 日本建築学会大会学術講演梗概集(北陸), F-2分冊, pp741-742, 2010
- 2) 中村周, 安森亮雄, 佐熊勇亮: 大学建築における通過動線による空間の接続, 日本建築学会大会学術講演梗概集(関東)F-2分冊, pp41-pp42, 2011

表6 地上階におけるコモンスペースの配置

No.	大学/校舎名	階	エンタランス部		非エンタランス部		過半	通過動線	屋外CS
			内部	外部	内部	外部			
51	立教/本館	1F							
09	早稲田/理工学総合センター第1研究所	1F							
24	東京/法政学教育棟	1F							
93	横浜国立/自然科学系総合研究棟II	1F							
23	名古屋/新栄記念物産科学研究館	1F							
63	東京/弥生の研究教育棟1-10F	1F							
07	東京/教務棟宇宙研究機械棟	1F							
50	東京/KOMCEE	1F							
16	東京/生産技術研究所	1F							
07	文京/8号館	1F							
13	早稲田/理工学総合センター第2研究所	1F							
44	東京農業/世田谷キャンパス新1号館	1F							
10	公立はこだて未来大学	1F							
46	近畿/33号館	3F							
66	北陸学院/福国院/4号館 KYOAI COMMONS	1F							
01	山梨学院/大学院棟	1F							
40	東北/インテリジェン教育研究棟	1F							
28	東京農業/「食と農」の博物館	1F							
11	京都/総合博物館	1F							
53	東京/伊藤国際学術研究センター	1F							
08	文京/センターハウス	1F							
03	東京/資料/情報メディアセンター	1F							
52	東京/法学部3号館校舎	1F							
14	東京/国際・産学共同研究センター	1F							
03	東京/工学部1号館	1F							
13	東京/先端科学技術研究センター	1F							
27	東京/武田先端ビル	1F							
43	芝浦工業/大宮キャンパス2号館	1F							
12	神戸/百年記念館	2F							
45	東京工業/カールス1号館	1F							
01	神奈川/材料/情報学部棟	1F							
18	慶應義塾/日新研究室棟 来任舎	1F							
28	東京工業/守谷キャンパスG3棟	1F							
48	東京/相模キャンパス新領域環境棟	1F							
48	東京電機/東京工科大学1号館	1F							
19	福岡県立/看護学部棟	1F							
41	名古屋/理学院南	1F							
54	T学院/125周年記念総合教育棟	1F							
68	東北/化学/中実棟	1F							
24	早稲田/11号館	1F							
17	日本/生物資源化学部 実験棟・新本館	1F							
31	多摩/グローバル/イノベーション学部 新学舎	1F							
49	東京電機/東京工科大学2-4号館	1F							
28	立正/総合学術情報センター	3F							
04	東京/大学院 教理科学研究棟	1F							
21	武蔵工業/SAKURA CENTER #14	1F							
36	慶應義塾/日吉 第4校舎 独立館	B2F							
06	流通経済/新松キャンパス	1F							
33	早稲田/大久保キャンパス63号館	1F							
27	桜井/カトリック/カトリックキャンパス	1F							
06	産城/本部棟	1F							
02	神奈川県立保健福祉/教育研究棟	1F							
23	名古屋/理学院南	1F							
02	兵庫県立看護大学	1F							

表6, 10(注)表中の記号は表1-5, 表7, 9に準ずる。

表10 コモンスペースをもつ大学校舎の空間構成

上層階	地上階におけるコモンスペースの配置			
	コモンスペースなし	コア周リ	吹き抜け周リ	
地上階				
地上階なし				
地上階あり				
エンタランスかつ非エンタランス				
屋外コモンスペースあり				

\*1 宇都宮大学大学院工学研究科 博士前期課程  
 \*2 宇都宮大学大学院工学研究科 准教授 博士(工学)  
 \*3 宇都宮大学大学院工学研究科 博士後期課程(修士工学)

\*1 Graduate Student, Graduate School of Eng, Utsunomiya University  
 \*2 Assoc. Prof., Dr.Eng., Graduate School of Eng, Utsunomiya University  
 \*3 Doctoral Course, Graduate School of Eng, Utsunomiya University